

岡山森林管理署

担当者 森林技術指導官：福本真也
地域林政調整官：西田順次
TEL：050-3160-6135

- ▶ 岡山県の森林は、中国山地から瀬戸内海にかけて、変化に富んだ気候、地形などの自然条件や利用形態の違いにより、様々な森林が生育しています。県土の68%（484千ha）が森林であり、このうち国有林は32千haあります。
民有林では、ヒノキを中心とする人工林が176千haで、人工林率が39%と全国平均46%に比べやや低い状況にあります。また、岡山県における地域森林計画間伐対象森林（11～40年生）は、約6万haで全体の35%を占めており、適正な間伐の実施が課題となっています。今後、資源の成熟に伴い利用段階に移行しつつある森林について、木材等生産機能と地球温暖化防止機能の発揮の観点からは、これらの成熟した森林資源を伐採し、利用した上で跡地に再造林を行う「若返り」が求められています。
一方、岡山県北部地域に所在する国有林は、中国山地の脊梁地帯に分布し、国土保全、水源涵養等の公益的機能の発揮に重要な役割を果たしています。また、南部地域に所在する国有林は、保健・文化・教育的な利用の場として都市住民に利用されています。なお、国有林の人工林率は66%と高く、公益的機能の発揮のみならず、地域林業の中核をも担っています。
- ▶ 岡山県（美作県民局）との地域林政連絡会議では、平成28年度の地域課題の解決に向けた取組の総括を行い、平成29年度の民国連携の取組に向けて、森林整備推進協定の推進、有害鳥獣被害対策、低コスト造林の推進等について意見交換を行いました。
- ▶ 国有林が所在する津山市、新見市、真庭市、奈義町、鏡野町とも地域林政連絡会議を開催し、各市町の林業施策の概要、地域課題等について幅広く情報を共有し、意見交換を行いました。なお、それぞれの市町が抱えている地域課題については、事務担当者間により民国が連携した取組の検討を行い、それぞれの課題解決に向けた取組を展開しています。



（岡山県との地域林政連絡会議の様子）

広葉樹資源の有効活用

【課題】 里山未利用広葉樹資源の有効活用（継続）

【取組状況】

- かつて薪炭林として活用されていたコナラやくヌギを主体とした里山広葉樹林は、燃料革命以降放置され、大径木化によるカシノナガキクイムシによる立ち枯れのリスクが増大している。

このため岡山森林管理署では、里山広葉樹の家具や内装材等の用材等としての有効活用と天然下種更新による再生のためのモデル的取り組みを行う。



【釜谷国有林から搬出された広葉樹】

【成果と今後の課題】

- 平成29年度から新見市内の釜谷国有林で試験的に伐採を進め、販売、流通の段階での様々な課題点を洗い出し、より良い方向性を導き出し引き続き30年度以降も実施していく。

鳥獣被害対策の推進

【課題】 二ホンジカ被害対策（継続）

【取組状況】

- 国有林野等所在市町村長有志協議会等の各種会議において、各機関から二ホンジカ被害に係る情報の収集を実施。
- 二ホンジカの被害・生息状況を把握するため、国有林野内において簡易生息・被害調査を行い、関係機関等への情報共有を実施。
- 中国四国農政局や市町村が主催する「鳥獣被害対策現地検討会」等に参加し、関係機関等との意見交換を実施。

【成果と今後の課題】

- 各機関からの情報収集及び国有林内でのシカ生息状況調査により、シカの生息域を確認。今後、主伐・再造林を進めていく中で、シカの生息状況を常時把握し、生息密度等に応じた被害防止対策の検討が必要。
- 鳥獣被害対策現地検討会等において、各地域における個体数管理の手法や広域連携の必要性等について理解を深めることができた。今後、効果的な防除対策に向け、市町村や関係団体等との連携も視野に取組を継続。



（斜め張り試験地の二ホンジカ）

民有林と国有林が連携した管理経営の推進

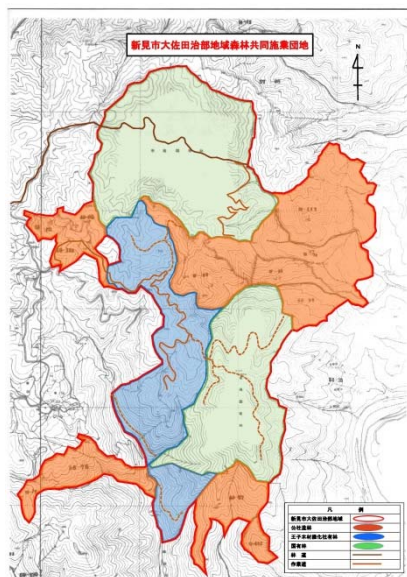
【課題1】新たな森林施業団地の設定（拡充）

【取組状況】

- 新見市大佐田治部地域における森林生業団地の実施に向けて、関係機関と意見交換を重ね、平成30年3月28日大佐田治部地域森林整備等推進協定を締結。

【成果と今後の課題】

- 関係機関と具体的な作業路線等を協議し、年度別事業計画を策定。今後は各機関が年度別計画に基づき作業ができるように予算確保に向けて情報共有していく。
また、周辺民有林との民国連携に向けた取組の浸透及び波及効果に期待。



【課題2】森林共同施業団地の拡充（継続）

【取組状況】

- 平成29年3月16日奈義町馬桑地域森林整備等推進協定の締結を行い、民有林における作業を手始めに着手し、作業の進捗に伴い国有林の詳細な事業計画を検討。

【成果と今後の課題】

- 岡山県及び地元森林組合との協力・連携により、民有林と一体となった効率的な路線設定となり、今後の民国連携に向けた取組の浸透及び波及効果に期待。



木材産業の振興

【課題】素材の供給と利用拡大

【取組状況】

- 官民一体となって木質バイオマス事業に取り組む真庭地域では、競争力を強化して新たな需要拡大が図られている。国有林では素材の安定的な供給により、地域の産業に寄与している。

【成果と今後の課題】

- 継続的な生産事業の実施により、地域への素材供給効果があるが、県外への流出も少なくない。



(真庭市内での木材利用研修の様子)

地域林業の活性化

【課題】地域の特性を活かした長期的な展望に基づく森林整備等（継続）

【取組状況】

- 津山市において、民有林における中期的な更新計画を策定するため、津山市内に所在する官行造林地の伐採計画について情報を共有し、意見交換を実施。
- 「津山市バイオマス産業都市構想策定委員会」に参画し、バイオマス産業都市の構築に向けて意見交換を実施。
- 「津山市森づくり委員会」に参画し、森林の有する多面的機能を持続的に発揮させるための森づくりに関する施策等の検討を実施。

【成果と今後の課題】

- 官行造林地の主伐に係る計画について情報の共有化を図り、契約解除（返地）後の更新計画策定の調整に寄与。官行造林地の販売結果によるその後の対応等について、現地検討を実施。また、伐採計画に計上されていない林分について、主伐指定への振替の可否について検討。
- 国有林は津山市の森林の10%を占めており、「津山市バイオマス産業都市構想策定委員会」、「津山市森づくり委員会」において、関係機関との連携により津山市の地域林業の活性化に寄与。

